

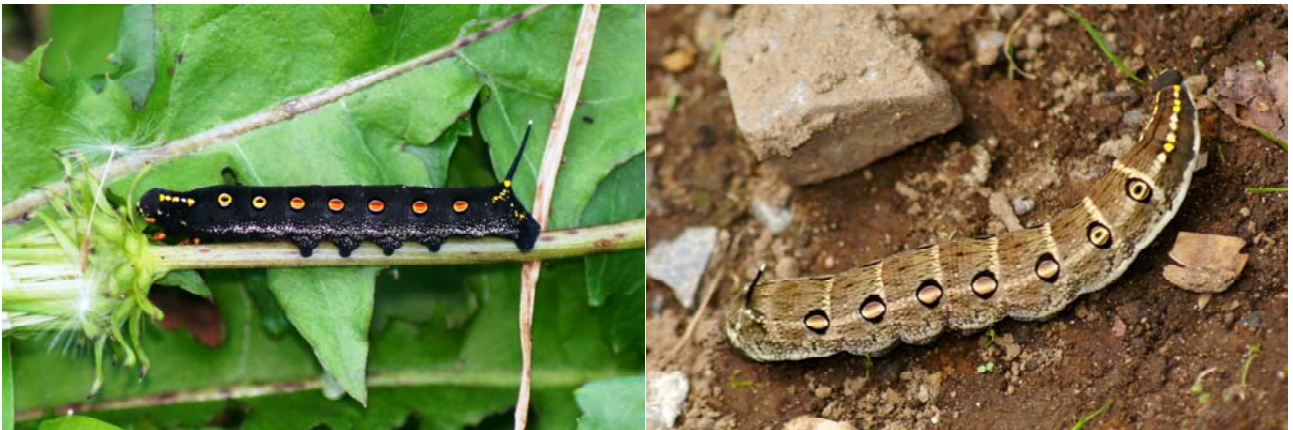
# 牛久：学校周辺に見る自然

第4号 ひたち野西近隣公園

2015年10月20日発行

<動物のすみかをしらべよう ～秋のみずべ公園 ④葉を食べる虫たち その1. ガやハチの幼虫ようちゅう>

9月24、29日、ひたち野うしく小3年生とのみずべ公園。テーマは「動物のすみかをしらべよう」。今回は、植物の葉を食べるガやハチの幼虫ようちゅう。



タンポポにいたセスジスズメの若い幼虫(左)と、まもなく蛹となるセスジスズメ(右)。

この日、一番目についたのはセスジスズメの幼虫ようちゅうでしょう。まっ黒な体に赤や黄の目玉めだまもよう。おしりには長い角つののようなものが出ている。一見、どちらが前きょうぶだろうって思ってしまうですね。左の写真では、左側が前きょうぶ。胸部から足ついでが3対、計6本出ているようちゅう。幼虫でも昆虫の仲間の特ちょうをもっています。まん中へんにも4対、おしりにも1対黒く太い足ついでのようなものが出ているが、これらはそれぞれ「腹脚ふつきやく」、「尾脚びきやく」とよばれ腹部から出ていて、本物の足とは区別されています。ちょっと、ややこしいですね。右の写真は最初、別のスズメガの幼虫かと思いましたが、調べてみたら同じセスジスズメの幼虫ようちゅうで、大きく色も違いますが、まもなく蛹さなぎになろうとしている幼虫と分かりました。みずべ公園ではヤブガラシの葉をよく食べていますが、中にはタンポポやギシギシの葉を食べているものも見られました。うちの花壇では、ホウセンカやコンニャクの葉を食べるにつつき敵てきでもあります。



こちらもたくさん見られました。よく見るとオレンジ色の頭に黒い小さな目が1対あって、かわいい顔をしています。でも、ギシギシの葉をムシヤムシヤ食べて、ほとんど脈みやくだけにしてしまいます。このような虫を見ると私たちは、すぐにチョウやガの幼虫ようちゅうと思ってしまうのですが、これはハグロハバチすがたというハチの幼虫。親の姿からは言われないと分かりませんね。

ギシギシの葉を食べる、ハグロハバチの幼虫。



木の幹みきについているのはマイマイガの卵らんかい。茶色のまゆのような中に小さな卵さなぎがたくさん産みつけられています。右は蛹さなぎのから。昨年おととしはたくさんの幼虫が発生し、幹などにびっしりいて大騒ぎでしたが、今年ことしはあまりたくさんは見かけませんでした。マイマイガの卵らんかい(左)とさなぎ(右)。卵かいの表面の茶色いのは、メスの鱗毛りんもう(りんもう)。





ヒロヘリアオイラガの幼虫(左)と、ヒメシロモンドクガの幼虫(右)。

どちらも毒々しいもよう<sup>どくどく</sup>と形で、いかにもさわると痛<sup>いた</sup>そうな感じですね。左はイラガ科の仲間<sup>いた</sup>でヒロヘリアオイラガ。幼虫<sup>ようちゆう</sup>だけでなくまゆの表面にも毒毛<sup>どくごう</sup>があって、刺<sup>さ</sup>されるとものすごい痛み<sup>いた</sup>ではれません。サクラなどいろいろな木<sup>き</sup>にいますので、気<sup>き</sup>をつけましょう。右はドクガ科<sup>どくか</sup>ですが毒毛<sup>どくごう</sup>はなく、毛<sup>げ</sup>にこすれた刺激<sup>しげき</sup>で赤<sup>あか</sup>くなったりかゆく<sup>かゆく</sup>なる程度<sup>ていど</sup>だそうですが、やはり素手<sup>すて</sup>ではさわらないように。



シダの仲間<sup>せんもん</sup>の、コウヤワラビの葉<sup>は</sup>を食べる幼虫<sup>ようちゆう</sup>も見つけましたね。特<sup>とく</sup>ちょうあるもようなので、名<sup>な</sup>まえもすぐ<sup>すぐ</sup>に分かりました。シダ<sup>せんだ</sup>を食べる虫<sup>むし</sup>はあまりいないようですが、この幼虫<sup>ようちゆう</sup>はシダ<sup>せんだ</sup>専門<sup>せんもん</sup>。変わ<sup>か</sup>っていますね。見方<sup>みかた</sup>を変<sup>か</sup>えると、花<sup>はな</sup>を咲<sup>さ</sup>かせる植物<sup>しょくぶつ</sup>よりずっと前<sup>まえ</sup>に生まれ<sup>う</sup>れた、コケ<sup>こけ</sup>やシダ<sup>せんだ</sup>を食べる虫<sup>むし</sup>があまりいないのはなぜ<sup>なぜ</sup>なのでしょうね？という疑問<sup>ぎもん</sup>も生まれ<sup>う</sup>れます。

**コウヤワラビの葉を食べる、キスジツマキリヨトウというガの幼虫。**



葉<sup>は</sup>が穴<sup>あな</sup>ぼこだらけ<sup>だらけ</sup>になったコナラ<sup>えだ</sup>の枝<sup>えだ</sup>を見つけました。どこか<sup>どこか</sup>に葉<sup>は</sup>を食べる虫<sup>むし</sup>がいないかと探<sup>たず</sup>しましたが、なかなか見<sup>み</sup>つかりません。ねばり強<sup>か</sup>く探<sup>たず</sup>してやっと見<sup>み</sup>つけたのは、ホソバシャチホコ<sup>か</sup>というガの幼虫<sup>ようちゆう</sup>。灰<sup>あ</sup>褐色<sup>こく</sup>と緑<sup>ろく</sup>のもようが枯<sup>か</sup>れか<sup>か</sup>った葉<sup>は</sup>や枝<sup>えだ</sup>にそっくりで、まさしく「自然<sup>しぜん</sup>のかくし絵<sup>え</sup>」でしたね。校庭<sup>がうてい</sup>でも、穴<sup>あな</sup>のあいた葉<sup>は</sup>があ<sup>あ</sup>ったら探<sup>たず</sup>してみませんか？ただし、毒<sup>どく</sup>のある虫<sup>むし</sup>もいますから、す手<sup>すて</sup>でさわらないようにね。

【理科支援員：宮内】

**コナラの葉を食べ、穴だらけにしてしまったホソバシャチホコというガの幼虫。まさしく自然のかくし絵！**

